

ほごねこの「TNR」

五年 曾根慶都

わたしは以前、親せきといっしょにほごねこしせつに行きました。中に入ってみると二十ぴきほどのねこがいて、人なつっこい子や近づくとすぐににげてしまう子などがいました。でも、ほんの一部をのぞいてみんなきょうつうしているところがありました。それはどのねこも「さくら耳」になっていることです。さくら耳とは、ほごされたねこがこれ以上ふえないようにする活動ができていているという印です。

二十ぴきみんなのらねこだったことにおどろいたわたしは、ほごねこしせつの方にインタビューしてみました。その中で最も心にとったことは、「TNR(トラップ・ニューター・リターン)」という言葉です。なぜならしせつの方は説明する時にその言葉をよく使っていたからです。わたしも初めて聞いたのですが、TNRとは、つかまえて、手術して、元の場所にもどすという活動のことです。くわえてそのしせつでTNRをやっている人はわずか二人だったことにとってもおどろきました。その二人で約一か月に五ひきくらいのペースで富士市の病院までつれていきます。さらにちいきの方の「TNR反対」についても対応しなければならぬのです。本当に大変だなあと思いました。二人は「TNRは命を一つでも多く助けたいからやっている。りかいしてほしい。」ということをしていました。わたしもほごねこのことをもっともっと知っているいろいろな人にこの活動について知ってほしいと思いました。

そのしせつでは、一か月に二回しようと会をやります。しかし、毎月やっても、だいたい一年でほごは、九十ぴき、じょうとできたねこは六十ぴきで三十ぴきほどがしせつにのこってしまいます。そのねこの中でもうお年よりになってしまった子は、しせつ長の方やスタッフ二名の方がひきとってこれているそうです。それでもしせつの方は、ねこがすきだからやっているわけではなく、一つでも多くの命をすくいたいからだと言っていました。人間の命が大切であるようにねこや動物の命も人と同じように大切にしなければいけないんだなあと思いました。

「今からできる命のほご活動」について考えそれにせつきよくてきにたずさわりたいと思いました。